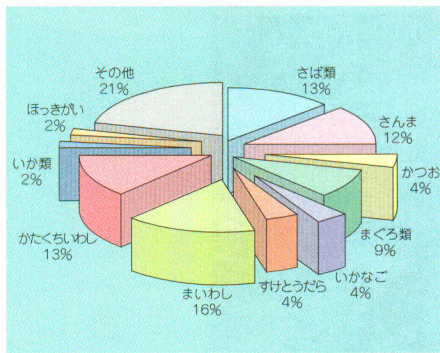


#### (4) 資源の利用



▲福島県の水揚げ（福島県農林水産部資料による）

私たちは沿岸や沖合にすむさまざまな生き物たちをとり、利用し生活しています。広い海で漁獲されるイワシやサンマのような浮魚類（うきうおるい）は、穀物や野菜、家畜に比べてとても短い間に、生まれ、育ち、死んで分解されるというサイクルを繰り返すとても繁殖力の強い生き物です。そのため私たちの食料として大いに利用されているのです。

しかし、この繁殖力の強い浮魚たちも急激な環境の変化や乱獲が生じ、一度その生態系を崩してしまうとせつかくの生産力を失ってしまいます。海の生物資源を守るため、限りある水産生物資源を上手に利用していくことが大切です。

#### (5) プランクトン

プランクトンとは比較的小さい動物植物で、運動能力が極めて弱いか、または、全く運動しないで移動が水の流れに支配されている生物のことです。プランクトンは細かく分類すると、生活する環境、生息する深度、浮遊生活する長さ、大きさなどで分けられます。一般的にプランクトンというと、顕微鏡でなければ見ることができない小さな生物を思い浮かべますが、クラゲのような大きな生物も浮遊生活をし、移動を水の流れに支配

#### (6) 県内の種苗生産

ヒラメやカレイのような底魚（そこうお）や、ウニ・アワビのような沿岸にすむ生き物は、沖合でとれるサンマやイワシのような回遊魚に比べ成長が遅く、とりすぎたり、急激な環境の変化があると、たちまちその数は減少してしまいます。そこで、福島県では海の資源の維持のため、種苗生産によって大きくしたアワビやウニ、ヒラメなどの稚貝や稚魚などを放流し資源の増大を図っています。

される点ではプランクトンといえます。

植物プランクトンは、陸上の植物と同じように光合成をして有機物を産出します。この植物プランクトンを動物プランクトンが食べることになり、さらにこのプランクトンたちは、小動物たちのエサとなるといった食物連鎖の基底部になります。プランクトンは海の生き物たちの食物連鎖に欠かすことのできない存在です。



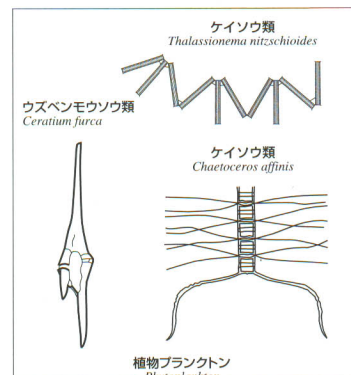
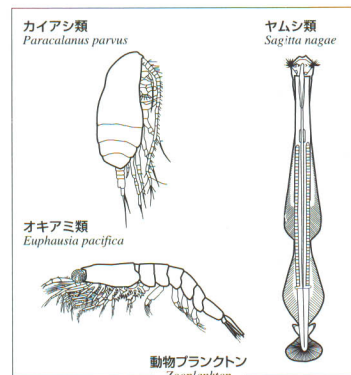
▲オセアニック・ガレリア



▲ウニ



▲ヒラメ



▲プランクトン